

第4回南海トラフ巨大地震災害対策等検討部会に対する見解（高橋智幸）

【議題4 大阪府地域防災計画】

もれなく対応していくということであれば、部会長案に異議はないが、議論の一助として、次の2点について意見を述べておく。

まず、災害対策は、被災後の動きが極めて重要である。事後対応によって、最終的な被害は変わってくる。人命救助や復旧・復興を一刻も早く進めていくためには、災害廃棄物の迅速な処理や港湾の整備、維持管理をしっかりと行うことなどが必要である。

災害廃棄物が救助や物資の輸送、復旧の邪魔にならないように、事前に、災害廃棄物の量を想定し、仮置き場、処理の方法等を検討しておくべき。また、大阪の場合、発災後は陸路が断たれる恐れがあるため、海上からの救助や物資等の輸送路をしっかりと確保しておくことが重要である。インフラ整備に努めることはもちろん、現時点で発災した場合には、どこのポイントは使えないといった現状把握を常に行うこと。被災後も被害状況の迅速な把握ができるようにしておき、柔軟に対応できるようにしておくことが重要と考える。当然のことであるが、被災後は、個人一人ひとりの動きが大事になる。防災教育を徹底していくことも大事である。

また、日常備蓄1週間分以上については、あくまでも努力目標として呼び掛ければ良いのではないかと。長期間にわたり孤立する可能性のある小さな集落を多く抱えるような府県であれば、日常備蓄は死活問題であるが、大阪府の場合であれば、住民の出来る範囲で目標の達成に取り組んでもらって対応できると考える。